

2013年9月20日  
世田谷こども守る会

## 秋の給食食材についての放射能汚染の傾向について

<注意が必要な食材>

### ・シイタケ

- 岩手県・原木シイタケ 52 検体 うち 36 件 8.2~70Bq/kg (9/6 厚労省日報第 722 報)  
検出された 36 検体のうち、12 検体が 50Bq/kg 以上  
茨城県・原木シイタケ 2 検体 うち 1 件 48Bq/kg (8/30 厚労省日報第 717 報)  
栃木県・原木シイタケ 12 検体 すべて 24~54Bq/kg (8/16 厚労省日報第 707 報)  
群馬県・原木シイタケ 53Bq/kg (8/8 厚労省日報第 701 報)

※シイタケは菌床、原木などの栽培方法や生産地など、目に見える情報からは判断が付きにくく、未だに非常に高い数値が報告されている食材です。また、それらを乾シイタケに加工すると更なる濃縮が起こります。乾シイタケを戻した水には多くの放射性物質が移行しますので、戻し汁ごとの調理は濃縮された放射性物質を丸ごと取り込むことになってしまいます。8月21日の厚労省日報では、千葉県の工場で生産された流通品昆布つゆから 21Bq/kg が検出されましたが、原因は材料に使われた干しシイタケと思われる。

### ・関東圏のワカサギ

- 茨城県霞ヶ浦 23Bq/kg (9/17 厚労省日報第 728 報)  
栃木県中禅寺湖 53Bq/kg (8/29 厚労省日報第 716 報)  
茨城県霞ヶ浦 4 検体すべて 21~32Bq/kg

※淡水魚は取り込んだミネラル類を排出する機構がないため放射性物質を蓄えやすく、加えて水中ではストロンチウムの含有率が高い傾向にあるとのこと。内蔵や骨ごと食べる小魚はストロンチウムを含んでいる可能性があり、影響が心配です。

- ・太平洋沿岸の魚類（東北～近畿地方にかけて）
  - 茨城県沖・コモンカスベ 52Bq/kg（8/28 厚労省日報第 715 報）
  - 茨城県沖・マダラ 54Bq/kg（8/22 厚労省日報第 711 報）
  - 宮城県沖・ヒラメ 3 検体すべて 16～44Bq/kg（7/5 厚労省日報第 678 報）

※汚染水の漏洩問題が発覚して以来、福島県周辺の太平洋沖の海産物にはますます注意が必要です。特にマダラなど、食物連鎖の上位にいる肉食性で寿命の長い魚は海の汚染を溜め込んでいる可能性があります。ワカサギ同様、検査されていないストロンチウムの含有が気になります。

- ・茨城、千葉、栃木県産の栗
  - 千葉県・7 検体 うち 5 件 5.8～20Bq/kg（9/13 厚労省日報第 727 報）
  - 茨城県・77Bq/kg（2012 年 10 月 生活クラブ）
  - 茨城県・35Bq/kg（2012 年 10 月 厚労省日報第 501 報）
  - 栃木県・170～260Bq/kg（2012 年 9 月 厚労省日報第 477 報）
  - 千葉県・85Bq/kg（2012 年 9 月 厚労省日報第 488 報）

※栗は実の部分に放射能を蓄えます。皮をむいてもほぼ変わりません。また、栗ごはんなどにすると、含有するセシウムの約 65%が煮汁に移行するという実験結果もあります。栗の検出傾向はタケノコの状況と似ているため、2013 年度の検査報告数はまだ十分ではありませんが、千葉県北部から茨城県南部にかけての産地に高い数値が出ると予測されます。栗は是非、産地にご配慮ください。

#### <その他の食材>

- ・サツマイモ : 千葉県および茨城県産は、時折 2~4Bq/kg 程度の検出。
- ・銀杏 : 昨年度の検査では、東京都のものでも 28.5Bq/kg の報告。
- ・関東圏のかんきつ類 : 関東各県～静岡県辺りまで、2 桁台の検出もあり。
- ・牛肉 : 頻度は低くなったが、未だに 50Bq/kg 前後の検出も。
- ・茨城県産レンコン : 測定すると、多くに 10Bq/kg くらいまでの検出あり。
- ・練り物 : 関東圏の魚（特にマダラ）が使用されていないでしょうか。
- ・米 : 摂取量の多い食材なので、昨年度に引続き産地にご配慮を。